

和地ひとみレポート No.110

平成26年度市政方を市長が表明・各会派が代表質問 市長の独自施策の来年度の取組みは？ 新たな施策は？



■市長による市政方針と会派代表質問

…現在開催されている平成26年第1回市議会定例会の初日、約1時間ほどかけて『平成26年度市政方針』が市長より表明されました。4月からスタートする新たな年度に市行政をどのような方針で推し進めていくかを「重要施策5点」、『第四次基本計画』の体系にそっての「主な施策」、「新年度予算の編成」の順に表明。

…施政方針に対しては、各会派の代表質問が設定されています。この代表質問は、各会派が質問時間、答弁時間を合わせて会派人数×10分を持ち時間とし行うものです。毎定例会ごとに希望する議員が行う一般質問は、答弁に対して再質問ができる規定になっていますが、代表質問は壇上で質問をまとめて行い、答弁もまとめて行われ、その答弁に対する再質問はできない規定となっています。よって「ものたりなさ」を感じる内容になることは否めませんが、多くの会派の質問に対する答弁を聞いているうちに、何となくではありますが、市の来年度の行政運営への姿勢が感じられます。

■市長の独自施策の行方は

…施政方針は来年度の取組み全般を網羅するものなので、全体を通して大きな変化もなく粛々と行政運営を進める印象になりがちで、それは理解できることですが、どこか数箇所でもキラリと光るような、来年は何か変わるぞと感ずる部分が欲しかったような気がします。特に市長肝入りの「観光施策」については、多くが語られず、今後どのように進めていくのかというビジョンが見えないところには、不安を感じました。観光施策は難しいものですが、肝入りと言われているのですから、ビジョンを持ってもっと研究し、創意工夫することが必要。特に「うまかんべえ～祭」は来年度予算案では予算増額としています。答弁と予算との整合性はどうかのさうかを感じました。ただ、方針はあくまでも方針ですので、今回表明された方針と実際の行政運営を照らし合わせて、今後を見守り、都度、具体的な案件で提言をしていきたいと思いました。

…さて、代表質問ですが、和地ひとみの所属する会派「民主党」には3名の議員が所属しているため、持ち時間は30分です。会派内で質問を取りまとめ、代表質問を行いました。そのやりとりについては以下の通りです。

「あらためて『市民と行政の協働』の具体的なイメージを伺う」

⇒（以下、⇒の後は市長答弁）これからの行政運営については、市民の皆様と行政が施策の目的を共有し、それぞれの役割と責任を果たしながら、共に連携協力して施策を推進していく、いわゆる協働による行政運営が重要

であると考えている。協働の方法としては、自治会をはじめ、地域やボランティアの皆様などのご協力をいただいて事業を行うことや、新たな施策などに取り組む際に説明会などにより、情報の提供および説明をし、ご理解とご協力をお願いすること。また、市民参加の審議会、懇談会などの設置やタウンミーティングの実施などを考えている。市民の皆様のご意見をお聞きして事業をすすめることなどがあるが、実施する事業に応じて考えてまいりたいと考えている。

「〔仮称〕総合福祉センターと新学校給食センターの開設について、長い年月がかかり、ようやく着手される運びとなった2つの大きな事業を進めるにあたり、来年度取り組むべき課題について伺う」

⇒（仮称）東大和市総合福祉センターの施設整備については、平成28年4月の開設に向けて事業実施者である法人とともに、準備を進めていく。平成26年度については、平成25年度に取りまとめた基本設計をもとに実施設計を行い、建設工事の着工に向けて準備を進めていく。また、市民の皆様には引き続き説明会等を開催し、事業内容や施設の概要などについて積極的に情報提供を行い、施設に対する理解や協力が得られるよう努めてまいりたいと考えている。次に新学校給食センター建設にかかる来年度取り組むべき課題についてだが、平成26年度は基本設計の内容を踏まえ実施設計を実施し、平成29年4月の稼働に向けて事業を進めていく。『東大和市学校給食基本計画』に掲げた内容を実施設計に反映させるとともに、最小の経費で最大の効果が得られるよう、努めていく。また、新学校給食センターの運営方法を民間委託化することについて、保護者に丁寧に説明していくことが必要であると考えている。

「家庭系廃棄物について、有料化と戸別収集の導入が予定されている。既に実施されている他自治体では、一般的に実施当初は市民の努力によって廃棄物は確実に減量されるが、年数を重ねるごとに徐々に増えていく傾向がある。そこで、本市として市民のモチベーションを維持するための施策について伺う」

⇒市では『東大和市一般廃棄物処理基本計画～ごみゼロプラン～』を策定し、減量目標についても計画している。市民の皆様はモチベーションを維持し続けていくことは、大変難しいことと認識しているが、今後も引き続き、市民、事業者、行政が一体となり、発生抑制、再利用、再利用の推進に取り組むことで、行政と市民が情報を共有できる仕組みを作ることや、分別の徹底や減量の促進が図れるよう、市民参画や市民協働を進める施策を展開して参りたいと考えている。

「公共施設の老朽化対策について、耐震化などで一時的に長寿命化ができ、建設の基礎部分以外の老朽化などを補修して使用していく場合と、施設の統廃合（再配置）等を含め、建て替えをした場合との比較検討について、実施の有無、可否、是非を伺う」

⇒市では公共施設の最適化を図るため今後、「公共施設白書」の作成、及び、「公共施設マネジメント計画」の策定を行っていく。「公共施設マネジメント計画」では、将来的な財政負担や施設の必要性などを考慮して、耐震化を含めた大規模改修による公共施設の長寿命化、また、統廃合、再配置等について検討し、その最適化について考えていく。

「防災について、当市の住宅の耐震化の現状と課題は。また、地震発生時に閉塞を防ぐべき道路沿線の建築物の耐震化の現状と課題は。」

⇒耐震化が図られた住宅の戸数の把握は困難であることから、現行の「東大和市耐震改修促進計画」では東京都の計画を踏まえて、木造住宅の耐震化率を推計している。東京都はこの推計の見直しと計画期限を5年間延長する見直しを行っているの、市においても今までの取組みを検証し、都の計画に即した見直しが必要だと考えている。次に地震発生時に閉塞を防ぐべき道路沿道の建築物の耐震化の現状と課題についてだが、東京における緊急輸送道路沿道建築物の耐震化を推進する条例で義務付けられている建築物の耐震診断については、当市内で対象となっている6棟すべてが実施済みだ。また、そのうち1棟は耐震化が図られている。今後は他の5棟の耐震化に向けた取組みが課題であると考えている。

「今後『うまかんべえ～祭』を継続するのか。継続するのであれば、どのようにイベントを充実させ発展させるのか」

⇒「うまかんべえ～祭」の継続については、実行委員会等において検討していただきたいと考えている。

「『地域ブランド』の確立とあるが、地域ブランドの意味と意義、そのもたらす効果を伺うとともに、実現させるための取組みについて伺う。また、当市の地域ブランドとして、現状、具体的に想定しているものなどはあるか伺う」

⇒地域のブランドとは特定の地域で産出される特産品をはじめ、地域と商品やサービス等が結びついた地域イメージの総体であり、地域ブランドを求めて市内外からの来訪により経済的効果をもたらすものだと考えている。市では地域ブランドとしてのご当地グルメの創出として「うまかんべえ～祭」を実施しており、引き続き市内事業者の皆様等と意見交換をしていきたいと考えている。次に東大和市の地域ブランドとして具体的に想定しているものについてだが、地域ブランドについては、



地域で産出された野菜や果物など、生産特産品、さらには特産の素材、伝統を活かして生産される加工食品等の商品をもとに『これぞ、東大和』というブランドが図れればと考えている。

「新たなプラネタリウムについて、メガスターとしては都内の公共施設では2番目の設置となる。この設備・施設をどのようにPRし、観光やまちの活性化に活用していくのか。また、関係部署の連携は考えているのか伺う」

⇒今回導入したプラネタリウム投影機「メガスターⅡB」は2011年に世界で最も先進的なプラネタリウム投影機としてギネスワールドレコードに認定された高性能な投影機だ。最大で1,000万個の星を投影できることから、投影内容の充実はもちろんだが、市の内外にこうした先進性を強くPRしていきたいと考えている。リニューアルしたプラネタリウムの観光等への活用について、観光事業においては、郷土博物館をウォーキングイベント等で観光拠点として活用するとともに、改訂を行う観光マップにおいて自然環境に恵まれた狭山丘陵とともにプラネタリウムの素晴らしさを紹介していく。関係部署との連携については、郷土博物館ではこれまでも夏休み期間中、多摩モノレールが実施するスタンプラリーに協力するなど他団体との連携を図ってきた。また、今月のリニューアルイベントに際しては産業振興課を通じて商業関係者の方に出店をお願いしたり、郷土芸能の団体の方々にも協力を頂くなど、市内団体との連携も図っている。今後も様々な機会を通じて関係部署との連携を図っていきたいと考えている。

「喜多方市との交流について、来年度の新たな取組みに関し、具体策を伺う」

⇒東大和市友好都市交流訪問事業補助制度により、多くの皆様に喜多方市を訪問していただき、喜多方市の自然や文化に触れていただきたいと考えている。また、今年度に引き続き、市民団体同士の交流の促進を図る。

「来年度の施策の中で『攻め』の姿勢で取り組むような長期的な発展を望んでスタートするものはあるか伺う」

⇒高齢者や障害者の福祉の向上として（仮称）東大和市総合福祉センターの開設に向けた事業の推進、児童福祉の向上として私立玉川上水保育園の開園や定員の拡大による待機児童の解消、安心で安全な学校給食を提供するための新学校給食センターの開設、廃棄物の減量を図るための家庭系廃棄物の有料化と戸別収集などが挙げられる。市政方針で申し上げた施策につきましてはいずれも市の長期的な展望を望んでのものであると認識しているので、意欲的に取り組んでいく。



毎回、最新版の市政レポート。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にお伝えします。

「身近なようで知らなかった市政、議会。伝えることがスタートだと思います。」

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102

東大和市 市議会議員

和地 ひとみ